



目次

1. サイエンスメンター・ワークショップ その3→	28~31 ページ
II. ISEF ファイナリスト体験者から→	32~33 ページ
III. サイエンスメンター・プログラム⑤→	34 ページ

I. サイエンスメンター・ワークショップ、その3

3月に開催いたしましたワークショップでは、株式会社オリイ研究所 代表取締役所長 吉藤健太郎氏に講演をお願いしました。今号ではまずその感想からご紹介いたします。メンティの皆さんはもちろんのこと、OB・OGの方もかなり刺激を受けた講演内容でした。

皆さんには下記の質問にご回答いただきました。

Q2. 株式会社オリイ研究所 代表取締役所長 吉藤健太郎様の講演はいかがでしたか？

- ・ 自分の人生が何を「テーマ」にしているかを切り口に講演をする人は今まで出会ったことがなかったので、非常に興味深かった。語り口も面白くて、時間がすぐに過ぎてしまったように感じた。
- ・ とても衝撃的で自分自身の進路などについても考えさせられる素晴らしい講演でした。オリイさんのような方のご講演をもっと沢山聞いてみたいと感じました。
- ・ とても勉強になりました。目的を達成するために最も必要な手段を選ぶことが重要だと感じました。
- ・ 本当に面白い講演だった。内容もさることながら、人を魅了するトーキングスキルを見習いたいと思った。
- ・ 自分の夢や目標を設定することの大切さを感じました。自分は何のために生きるのかを自分で決めることで、おのずと進むべきに道は見えてくるのだなと感じました。
- ・ その通りだと思うことや、ハッと思うことがたくさんあり、とても人生について深く考えさせられた。



吉藤氏講演風景

- ・ オリヒメ自体は昔 CM で見た事があって(手がなくて首だけの頃のやつで、ちょっとホラーやなと思ったりしました)まさか開発した人が地元から近い奈良県の人で、奈良工高の人とは思ってもよかったです。「本当に新しい事は人に批判されて当たり前」「自分が本当にしたい事を考える」という話を聞いて。自分の研究もよく人からバカに(というよりは自分の人格をバカにされているのかもしれませんが)されるのですが、へこたれずに頑張って研究進めていこうと改めて決意できました。
- ・ 初めて吉藤さんを見たときは黒いマントのようなものを着ていて、そのインパクトに圧倒されて少し恐怖のようなものも感じましたが、お話を聴くととても面白い方で、お話も魅力的でした。病室で孤独だった子が出会いの連続で大きな企業で同じように孤独な人を助けていることに大変驚きました。人にはきっかけ次第で無限の可能性があるのだと思いました。自分もいつでも積極的でありたいと思いました。
- ・ 最高でした。あんなに眠くない講演を聴いたのは生まれて初めてです。今まではロボット開発と聞くとなんだか近未来的な難しい話で、自分とは遠いものだという印象が強かったのですが、オリィさんの講演を聴いて180度印象が変わりました。質疑応答で「弟子にしてください」と言っている生徒がいましたが、私も手を挙げてそう言おうかと思うくらい、本当に心につき刺さるようなすばらしいお話でした。現在進路について深く悩んでいて、これからどうすればいいのかずっと考えていたのですが、オリィさんの講演を聴いてから私も自分のできる精一杯のことで世界中の人の役に立てるような生き方をしたいと思うようになりました。本当に素敵な講演でした。
- ・ 人の役に立つ製品を作ろうという考えに感動しました。自分の研究が人の役に立つかということ、そんなことはないような気もしてきてしまいました。
- ・ とても感動しました。こういう考え方もありなんだ、など色々学べました。OriHime とても素晴らしいロボットだなと思いました。

- ・ 吉藤氏の講演は本当に刺激的だった。話のテクニックもさることながら、氏の人生が一つの信念を持って紡がれているのだと思うと、研究の話のみならず自分の人生の参考になった話だと感じている。自分も氏のようにとは言わないまでも、研究に対する姿勢をもう一度考え直してみようと思った。
- ・ とても興味深い講演でした。オリィさん自身がとても刺激的な人だったのが大きいと思います。様々な悩みや体験を乗り越えて、とても独創的なことをなさっているにも関わらず、たどり着いた行動原理はいたってシンプルで「人の役に立ちたい」だった、と言っていたことが印象的でした。
- ・ 吉藤さんの自分の研究人生におけるテーマを一つ掲げて、それを目指して研究するという姿勢に感銘を受けました。研究の本来の意味を改めて知られる良い機会となりました。
- ・ 人生観を変えられるような講義でした。とても面白かったし、感動的な講義でした。あっという間の時間でした。
- ・ 今まで受けてきた講義の中で一番楽しかったです！現代を生きているなと感じさせる人でした。色々な発想を実際行動に移して形にされているところ、常に考え続けていること、他にも沢山オリィ先生から感銘を受ける場面がありましたが、先生のお話を聞いて自分そして誰にだって可能性は無限にあり、なんだってできるんだ、という気持ちにさせて頂きました。また、先生にお会いしたいです。

続いて、やはり協力してもらったOB・OGの方にも吉藤氏の講演を聞いた感想を伺いました。

- ・ 大変、自分に刺激のある講演になりました。プレゼンの仕方、人を巻き込むような話し方、関心・感動するような話、色々な面から見ても勉強になりました！自分の人生を改めて考え直される機会になりました。ちなみに、吉藤先生の本も購入し勉強しているところです。
- ・ ただ自分の興味・関心のための研究から、人の役に立つ研究にシフトできたストーリーは非常に感心させられました。吉藤先生が作られたロボットは、特別支援など教育の現場だけではなく、介護の現場にも活かすことができると思いました。
- ・ 吉藤氏の講演は、以前テレビで見かけていたので、直接聞いてよかった。彼自身の人生観は自分と重なるところもあって、面白く聴けた。自分の研究をどのように還元していくか、というのはメンティにも考えてほしいと思う。オリヒメをメンターの先生のところに置いて、それを通じてメンティと話をできるようになったらいいかも、などと考えたりもした。
- ・ 中学、高専の時代から人一倍悩み、考え抜いて辿り着いた信念を貫き通して生きている姿に非常に刺激を受けた。人生の目的を「孤独の解決」に据えているとのことだったが、私自身はそのような強い人生の目的と言えるものを持っておらず、改めて考えさせられる講演だった。メンティに自分の将来について考えてもらうワークショップの基調講演として、ベストマッチだったのではないかな。

Ⅱ. ISEFファイナリスト体験者から

続きまして先月の5月に開催されたIntel ISEF 2018では日本代表11名が計6つの部門優秀賞を受賞し、日本代表として過去最多となりました。(ISEF情報サイトより)

私は事前に開催された日本ファイナリストたちの決起大会に参加いたしましたが、そこで出会ったファイナリストOGの方からISEFにちなんで寄稿していただきましたのでご紹介いたします。

「科学。情熱と葛藤」

堀内遥加

私が研究を始めたきっかけは、誰もが一度は行う、小学校の科学自由研究。小学校低学年の時は研究に対し、特に思い入れもなかった。

自ら研究に楽しさを見つけたのは、小学校4年生で行った、食べ物の水分量の研究だった。毎日、サンプルの重さをはかり、記録をつけ、その変化を見るという単純な研究だった。しかし、キャベツの90%が水分でできているという結果を導き出した時、自分の実生活と科学が繋がり、科学の面白さを体感した。それ以来、私は科学研究の面白さに取り憑かれている。

小学校～中学校の途中までは、研究が楽しくて、好きで仕方なかった。

中学校1年生の時に全国大会に入選し、さらにその先にISEFという国際大会があることを知った。ISEFに出てみたい！という思いが強くなった。

しかし、高校においては、単純に好きという気持ちだけでは研究を続けられなかった。実験は面白い、続けたい、と思う一方、やめてしまいたいという気持ちにもなった。

なぜなら、完全な個人研究だったため、周りに理解されることが幾度となくあったし、部活動は競泳部に所属していたため、練習との両立が難しく、めんどくさいと思ったこともあった。

また、テストや受験も関係なく続けていたので、成績があまり良くなく、先生から小言を言われたこともあった。

そして、小学校から毎年なにかしらの科学研究の賞をもらっていたため、周りの人に特別視され、それによってなんとなく居心地が悪く感じたこともあった。↑

このことから、心の中は、「研究を続けたい・もっと知りたい」という思いがある一方、ずっと続けてきたというプライドと変な義務感のせいで、「やらなくちゃ・・・」「みとめられなくちゃ・・・」と思うようになったし、それに反して「なんでこれをやらなくちゃいけないんだ」と思ったりもした。

その時は、まるで、真空管の中に閉じ込められているような窮屈さと息苦しさを感じた。

そんな思いを抱えつつも、ISEF には行きたいという夢を持って高校3年生まで研究を続けた。この時の研究テーマは「ヨーグルトによる発電の機構」についてだった。

この研究は、中央審査まで進んだ。

結果発表の時、最後の最後に私の名前が呼ばれた。内閣総理大臣賞だった。

そして、私は ISEF への派遣メンバーに選ばれた。

【堀内さんのプロフィール】

ISEF 参加時の研究テーマ「ヨーグルトによる発電の機構」

筑波大学理工学化学類卒業後、1年間アメリカニューヨークに留学、現在、バンタンデザイン研究所にてデザインを学んでいます

※次号でも堀内さんの記事を紹介する予定です。

なお、Intel ISEF 2018 の受賞結果は下記のサイト URL よりご覧いただくことが可能です。

<http://isef.jp/2018/05/18/intel-isef->

[2018-%E6%97%A5%E6%9C%AC%E4%BB%A3%E8%A1%A811%E5%90%8D%E3%81%8C%E8%A8%886%E3%81%A4%E3%81%AE%E9%83%A8%E9%96%80%E5%84%AA%E7%A7%80%E8%B3%9E%E3%82%92%E5%8F%97%E8%B3%9E/](http://isef.jp/2018/05/18/intel-isef-2018-%E6%97%A5%E6%9C%AC%E4%BB%A3%E8%A1%A811%E5%90%8D%E3%81%8C%E8%A8%886%E3%81%A4%E3%81%AE%E9%83%A8%E9%96%80%E5%84%AA%E7%A7%80%E8%B3%9E%E3%82%92%E5%8F%97%E8%B3%9E/)

Ⅲ. サイエンスメンター・プログラム⑤

最後に、サイエンスメンターの知ってほしいことシリーズをお届けいたします。審査についてです。

前年度から開始時期を9月に変更し、5月の募集となって2回目の審査が始まりました。2018年度は総数75件の応募がありました。たくさんのご応募、本当にありがとうございました。現在、事務局では6月23日の2次審査に向けて準備をしています。

サイエンスメンター・プログラムは応募いただいた中から、総数20件程度のメンティを採択し、利用していただくことにしています。毎年、事業委員の先生が皆さんの書類を検討し、昨年から開始した面接（2次審査）でみなさんのモチベーションを確認して通過したメンティ候補が、その研究に沿ったメンター候補の先生と最終面談（3次審査）に参加していただきます。


当初は書類選考のみで採択を決めていましたが、1年間という長い期間にずっと地道に研究を続けることができるメンティ候補を探すために、色々と改良・工夫をしてきました。

特に前年度から始めた面接ですが、遠方の方はWebで参加してもらいます。皆さんもLINEやスマートフォンのビデオ通話を体験されたことがあると思いますが、サイエンスメンター・プログラムではGoogleの機能である「ハングアウト」を利用していますが、実際にきてもらって面接するのと何ら変わりなく、面接することができることと事業委員の先生方から評価されています。

担当者としては、北海道から沖縄まで全国にいるはずの科学オタクな中学生・高校生・高等専門学校生から応募してもらいたいと願っています。

～事務局 加瀬より～

梅雨入りして雨の日が続いていますね。雨が降ると通勤が憂鬱ですが、一方では大好きな長靴を履く機会が増えてうれしくもあるこの頃です。体調を崩しやすい季節ですので皆様、ご自愛ください。メンティ・先生・メンターのどなたでも、ニュースやニュースレターに関して、ご希望があれば遠慮なく事務局にご連絡下さい。また、こんな情報を載せたい・知りたいという要望も大歓迎です。

発行元： 公益財団法人
日本科学協会 企画室
サイエンスメンターニュース 第4巻 第5号 (通巻41号)

発行日：2018年6月21日

〒107-0052 東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル5F TEL:03-6229-5360 FAX:03-6229-5369

URL: <http://www.jss.or.jp/ikusei/mentor/>

E-mail: kikaku@jss.or.jp